

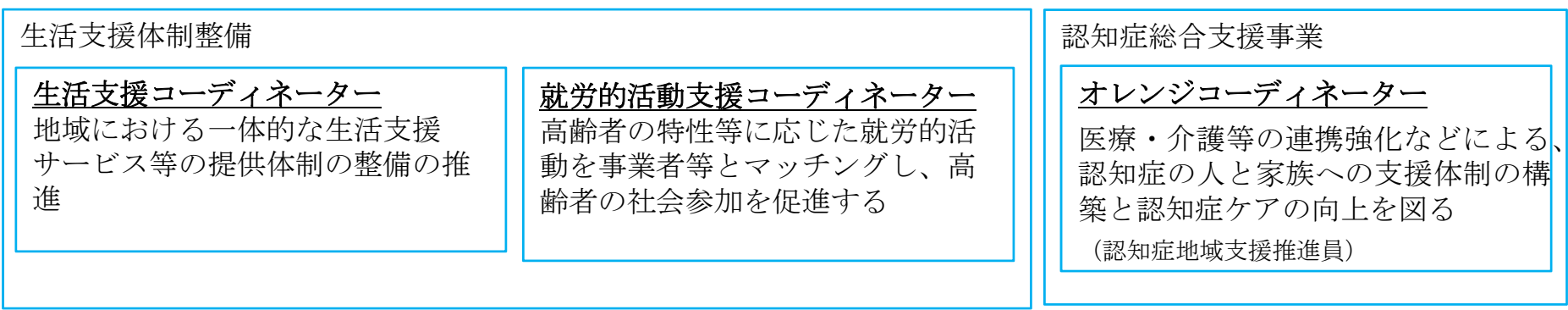
高齢化の進展に伴い、高齢者の絶対数が増加していく（需要の増加）、一方介護人材不足を解消することは容易ではない（供給の不足）。  
 また、自立している高齢者は積極的に社会参加を促進することにより、自立期間の延伸を図れる。  
 さらに、認知症へ地域全体で対応していく必要性がある。  
 これらのことを地域と協働して個別で実施していくのではなく、一本化して取り組む。

**1. 多機能コーディネーター（生活支援コーディネーター+就労的活動支援コーディネーター+オレンジコーディネーター）の配置**

**1) プランⅦでの方向性**

就労的活動支援コーディネーターを配置予定

**2) 事業と現状**



|           |           |     |             |
|-----------|-----------|-----|-------------|
| 第1層（市全域）  | 市職員兼務（5名） | 未配置 | 市職員兼務（4名）   |
| 第2層（生活圏域） | NPO委託（3名） | 未配置 | 包括職員兼務（15名） |

**3) 発展的実現に向けて**

地域との連携や業務の特性など関連性が深い⇒地域との連携する窓口の一本化・専任化

- ① 高齢者は加齢に伴い、徐々に変化するため、自立から連続的な支援が必要
- ② 3つのコーディネイトは地域包括の業務から派生している（包括との相互補完体制が必要）

**4) 具体的な方策** アジャイル（素早く、機敏に）的に実施

|           |             |
|-----------|-------------|
| 第1層（市全域）  | 市職員専任（1名）   |
| 第2層（生活圏域） | 包括職員専任（15名） |

## 2. 小さな移動「グリーンスローモビリティ」の先行実施

### 1) プランⅧでの方向性

都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」の一環として実証調査を行っていた

### 2) 事業と現状

道路運送法上の許可・登録不要の地域の互助による「松戸モデル」として、2019年国交省の実証調査、2021年千葉大学・ヤマハ発動機の実証調査を行った結果、グリスロによる小さな移動が、行動範囲を広げ、心理的・行動的にもポジティブな効果が見られたことから、2022年度より地域導入を図った。

現在まで、多機能で付加価値の高い車両の導入により、地域が連携し、地域特性に応じた自主的な活動が行われ様々な有用な波及効果が生まれている。

(地域の自主的な活動)

(地域の協力)



買い物



グランドゴルフの送迎



おやこdeひろばの送迎



イベント利用



青パト (防犯)



タイヤ交換



2020年コロナ禍で高齢者が外出自粛している最中、試行的にオンライン・サロンを実施し、高齢者がスマホにも抵抗感がなく積極的に取り組んでいる。

オンラインサロンの取り組みは  
アジア健康長寿イノベーション賞2021において  
新型コロナ対応特別賞受賞  
(松戸市初の国際賞)

### 3) 発展的実現に向けて

小さなグリスロの移動 ⇒ 社会参加の促進、人と人がつながるコミュニケーションの活性化、互助による地域活性化

新たに導入する地域を増やすために、R4年度 ①実証調査 (4週間) 受付中、②1 DAYトライアル (試乗) を実施 (2 地域、1 地区) ( 新 年 度 )

1. 地域導入車両 (2 台⇒5 台に増車)
2. 車両の安全性を向上するための改造
3. 利用者の利便性を向上するために、予約システムの向上
4. よりきめ細やかな小さな移動ができるように超小型モビリティの実証調査を実施